

令和4年度 地域包括支援センターの重点項目

新型コロナウイルス感染症に関する国の示す基本的対処方針に基づいて、感染防止対策を徹底した上で、地域包括ケアシステムの構築に向けて、地域包括支援センターの活動を推進する。

○高齢者の自立支援・重度化防止に向けた介護予防ケアマネジメントの質の向上

リハビリ専門職と地域包括支援センターの連携により、「元の生活を取り戻すための適切な目標」を提案する。

- (1) 短期集中予防型サービスを推進する。
- (2) リハビリ専門職と地域包括支援センターの同行訪問により、自立支援を目指したケアマネジメントを推進する。
- (3) 自立支援型地域ケア会議（幸せます会議）を推進する。

○介護予防の場づくりの推進と生活支援体制整備

- (1) 住民主体の介護予防教室「やまぐち元気アップ体操」について、既存のグループを支援するとともに、新設を促進する。
- (2) 「元気アップくらぶ」の市内15か所の設置を目指し、新設を促進する。
- (3) 生活支援コーディネーターを中心として、生活支援に関する情報の集約及び地域の支えあい活動などの取組を推進する。
- (4) 後期高齢者医療保険制度及び国民健康保険の事業との連携を図り、高齢者の保健事業と介護予防を一体的に実施する。

○高齢者虐待の早期発見と対応・成年後見制度の利用促進

- (1) 高齢者虐待の早期発見のため、相談窓口の周知を図るとともに、各地域包括支援センターと連携して適切に対応する。
- (2) 成年後見制度の周知を図り、関係機関と連携して適切に対応する。
- (3) 「防府市成年後見センター」の周知を図り、成年後見制度の利用を促進する。

○認知症になっても暮らしやすいまちづくりの推進

- (1) 「認知症サポーター養成講座」の開催など、認知症に対する促進するとともに、見守り体制の強化を図る。
- (2) 認知症カフェの周知を図るとともに、認知症の人とその家族の相談支援体制の充実を図る。
- (4) 認知症の人の声をきき、反映させた取組を推進する。
- (5) 認知症の早期の支援として、「チームオレンジ」の設置を検討する。

○在宅医療と介護の連携の推進

- (1) 在宅医療に関する相談窓口の周知を図り、在宅医療の推進に努める。
- (2) 在宅医療に関するセミナーを開催するなど、在宅医療について普及啓発を図る。

センター名	防府市地域包括支援センター	設置主体	防府市
住所	寿町7-1	管理者	小野 泰子
人員体制 (5)人	保健師等 4 人 生活支援コーディネーター 1人		
担当圏域 高齢者人口と 高齢化率	野島地区 R4年3月末 基幹的機能及び委託包括の後方支 援	地区別	野島 56人 (72.7%) 【58.4%】 ()65歳以上の割合 【 】75歳以上の割合
地域の特性 について	<ul style="list-style-type: none"> ・美しい海の自然に囲まれ、5月にはツツジが生い茂り、赤く染まることから「茜島」とも呼ばれている。山の傾斜面に家が建っており、坂道が多い環境である。 ・高齢化率73.8%と市内で最も高齢化の進んでいる地域である。要介護状態になり、島での生活に不安を感じ、島外の家族宅や施設入所をされる人も多く、実際の人口は62人よりも少ない。 ・認知症や身体能力の低下等により、支援が必要になる高齢者が、島での生活に対して不安を感じ、やむを得ず島を離れる高齢者がいる。 ・子どもはいないが、島外から通学している小中学生が島に元気をもたらしている。 ・住民の生活については、週1回の移動販売(いくまる号)が買い物の機会となっている。 ・医療については、週2回(月・木)に開設される野島診療所または、島外の医療機関を受診するほか、市保健師による健康相談が週1回行われている。 ・地域住民のつながりは強く、お互いを気にかけて、助け合いながら生活をしている。 		
重点的な取 組について	<ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ安心・安全に、その人らしい生活が継続できるよう、野島地区で生活をしている住民の実態を把握し、相談体制の充実や生活支援について検討する。 ・基幹的機能をもつ包括支援センターとして、委託包括支援センターとの連携を密にし、相談体制の充実を図ると共に、地域包括ケアシステム構築に努める。 		

センター名	防府東域包括支援センター	法人名	社会福祉法人 周陽福祉会
住所	防府市岸津二丁目24-20	管理者	佐々木 啓太
人員体制 (12)人	保健師等 2人 社会福祉士 2人 主任介護支援専門員 2人 計画作成担当(介護支援専門員等) 4人 自立支援コーディネーター1名 生活支援コーディネーター 1人		
担当圏域 高齢者人口と 高齢化率	R 4年3月末現在 9,633人 ()65歳以上の割合 【 】75歳以上の割合	地区別	牟礼 5,297人 (33.8%) 【 18.3% 】 松崎 3,372人 (30.7%) 【 17.2% 】 富海 964人 (52.6%) 【 30.7% 】
地域の特性 について	牟礼地区 ・人口が多く、高齢化率はやや高い。 ・地域が広く、自治会数が多い ・古くからの地域と新興住宅地がある。 ・自治会が主催するサロン活動や、お助け隊などの活動が盛んである。 ・施設が多い(通所介護、特養、障害者施設等) 松崎地区 ・人口が多く、高齢化率はやや高い。 ・防府駅があり、利便性が高い。公共の建物も多い(アスパラート、ルルサス、公会堂) ・防府天満宮を中心とした門前町であり、商店街もある。 ・昔からのつながりが強い地域である一方、マンションも多く、つながりの少ない部分もある。 ・医療機関が多い。 富海地区 ・人口が少なく、高齢化率がかなり高い。 ・国道2号線を隔てて、山側と海側に分かれている。夏は海水浴客が多い。 ・医療機関がない。 ・買い物をする場所も少ない。 ・地域の活動は活発であり、三世代交流等も活発である。 ・歴史のある街であり、史跡も多い。		

<p>重点的な取組について</p>	<p>地域住民の心身の健康保持、保健・医療の向上及び福祉の増進を包括的に支援し、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、地域住民の相談窓口となり、生活の安定のために必要なサービスが途切れることなく一貫して受けられるように支援させていただきます。</p> <p>また、防府市の目指す「地域包括ケアシステム」を実現すべく、住民が今後の自分の暮らし方を「我が事」と捉えられる地域にしていくことを目指します。</p> <p>総合事業の抜本的な見直しに伴い、高齢者の自立支援や重度化防止に向けた取り組みは今後地域で暮らす高齢者がその人らしく生活することの原点につながるものと思います。地域ケア会議（幸せます会議、個別ケア会議）を核にしなが、リハ職同行訪問、短期集中予防型サービス、元気アップくらぶやてごねっと、住民主体の介護予防脅教室等を効果的に推進できるよう、市包括や4つの委託包括と連携しながら、体制を整備してまいります。</p> <p>また、高齢者は様々な生活歴を持たれています。一人ひとりの個別性や尊厳を大切にしながら、ICF の視点を生かしたアセスメントが実施でき、その人にとっての最善の支援が出来るよう、支援者の質を高めてまいります。</p> <p>権利擁護の視点も大切になってきます。高齢者虐待の早期発見や、認知機能が低下したり、身寄りのいない方の成年後見制度の活用支援についても、新たにできた「防府市成年後見センター」と連携を取りながら活用の支援を推進いたします。</p> <p>認知症の方の増加も懸念されています。認知症があっても住み慣れた地域で生活できるよう、認知症の支援も充実してまいります。</p> <p>新型コロナウイルスの感染拡大はまだまだ予断を許さない状況にあります。高齢者に感染させないためにも、自身のワクチン接種などを含めた感染対応の徹底を図ります。</p> <p>また、研修などのウェブ活用やオンライン化なども、感染対策と業務効率化の双方を実現するために、活用促進してまいります。</p>
-------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

センター名	防府西地域包括支援センター	法人名	社会福祉法人 博愛会
住所	防府市大字台道1684番地	管理者	大道 久子
人員体制 (10)人	保健師等 2 人 社会福祉士 2 人 主任ケアマネジャー 2人 ケアマネジャー 2 人 自立支援コーディネーター1人 生活支援コーディネーター 1人		
担当圏域 高齢者人口と 高齢化率	R4年3月末現在 10,231 人 ()65 歳以上の割合 【 】75 歳以上の割合	地区別	中関 3,141 人 (25.9%) 【12.6%】 華城 3,853 人 (25.9%) 【13.3%】 西浦 1,277 人 (39.0%) 【19.6%】 大道 1,960 人 (42.3%) 【23.9%】
地域の特性 について	<p>(環境)農村地域・新興住宅地域が混在し、中心街に近いことで利便性が良く比較的商業施設・医療機関に恵まれている地域から、「畑がサロン」と農作業を楽しむ地域と幅広い。高齢者は年々増加している。</p> <p>臨海地域では大手自動車工場、工業団地が操業し県内有数の出荷を誇り、市の発展を支えている一方、公共交通の利便性が悪く、生活圏域に商業施設・医療機関が少ない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活圏域に商業施設が少ない西浦地区で昨年より西浦づくりの会・西浦地区社会福祉協議会・民児協・介護事業所・包括支援センターで高齢者の移動支援を考える会を発足、「西浦おでかけ会」継続中。 ・大道地区は中心街からは離れており高齢になっても車が手放せない高齢者が多いと思われたが、昔ながらの関係も残り、地域の支えあいが強く、特に困っていないと話す高齢者が多い。世代交流も盛んな地区である。 ・中関地区は工業団地も多いことから官舎と市営住宅・等の集合住宅が多い地区で、比較的商業施設、医療機関は多いが、直結したバス路線が少ない等の課題がある。又近年若い世代の転入者が増えたが行事へ関心が低下、つながりが希薄になり、閉じこもりのリスクが高まっている。 ・華城地区は地域コミュニティ活動、ボランティア活動が盛んで商業施設も多い地域である。地域活動が盛んな一方で役員の担い手が不足で役員も高齢化している。中関地区と同じく若い世代の転入者が増え、新旧の交流も少ない。 		
重点的な取組について	<p>地域共生社会の実現を目指し、高齢者だけでなくその世帯や地域住民が抱える様々な悩み、問題、課題の解決に向けた相談支援体制の構築に貢献する。</p> <p>1、高齢者の自立支援・重度化防止に向けた介護予防ケアマネジメントの質の向上</p> <p>(1) 地域に住む高齢者が心身の悪化(フレイル状態)が原因で、地域から孤立すること・重度化が予防できるよう、「短期集中予防型サービス」を中心に、ひとりひとりの生活に寄り添い、自身の強みを生かしながら、生活改善の工夫等、セルフマネジメントできる環境作りを目指す。</p>		

- (2) 「本人のアセットに着目する」「元の生活に戻る」をスローガンに自立支援型地域ケア会議（幸せます会議）を継続し、総合事業の充実、地域の課題抽出、資源の活用、開発に努める。

2、介護予防の場作りの推進と生活支援体制整備

- (1) 昨年に引き続き、高齢者自らが役割を持ち社会参加・地域活動に参加・活躍できる事を目標とし生活支援・介護予防サービスの充実、併せて住民ボランティア・福祉事業所・民間企業団体との協同を目指す。
- (2) 今ある能力・既存の資源等を発見・活用することと同時に各地域に適した介護予防の取り組み、普及啓発を行う。

3、認知症になっても暮らしやすい町づくりの推進

- (1) 「認知症サポーター養成講座」のニーズに積極的に実施し、認知症になっても可能な限り住み慣れた場所で暮らすこと、能力のある高齢者が就労、もしくは役割を持てる事の実現、認知症に対する、地域の理解の促進を図る。
- (2) 認知症に関する相談支援体制を確立する。

4、高齢者虐待の早期発見と対応、成年後見制度利用促進

- (1) 高齢者虐待の相談窓口の周知を図り、早期発見に努める。
- (2) 早期介入を心掛け、通報・相談後から高齢福祉課（市包括）に連携し被虐待者及び養護者に対しても支援の対象とし、問題の解決に努める。
- (3) 成年後見制度や権利擁護事業の必要な高齢者・家族に対しては関係機関の適切な支援に繋げる。

5、在宅医療と介護の連携促進

- (1) 地域の保健・医療・福祉の専門職と連携を図り、ワンストップサービス拠点とした業務に対応できるよう知識・スキルの向上に努める。

センター名	防府南地域包括支援センター	法人名	医療法人 松寿会
住所	新田 1629 番地 1	管理者	西山 由子
人員体制 (9)人	保健師等 1人 社会福祉士 3人 主任ケアマネジャー 1人 ケアマネジャー 2人 自立支援コーディネーター 1人 生活支援コーディネーター 1人		
担当圏域 高齢者人口と 高齢化率	R4年3月末現在 7,299 人 ()65 歳以上の割合 【 】75 歳以上の割合	地区別	勝間 1,459 人 (26.8%) 【15.2%】 華浦 2,891 人 (32.1%) 【17.1%】 新田 2,357 人 (26.6%) 【13.8%】 向島 592 人 (52.6%) 【30.4%】
地域の特性 について	<p>勝間地区:北部は山陽本線を境とし南部は三田尻湾に面し工場群が立ち並び臨海工業地帯の一角を占めている。大きなショッピングセンターがある。自治会単位の活動は活発に行われている。新築の家も増えているが、空き家・廃屋も増加しており、一人暮らしの孤立化も心配される。また自治会や民生委員などの役割の担い手不足も課題である。</p> <p>華浦地区:学校やスポーツ施設、商業施設、医療機関等が集積している。一方空き家が増え、閉店した店舗がそのままになっている。市住や社宅、アパートも多く、昔からの住民と新しく越してきた住民との交流が少ない。中心地は住宅が密集しており、道幅が狭い。交通量が多く、高齢者にとっては危険も多い。地域活動が盛んで自治会活動に意欲的な地域が多いが、今後活動を継続していく上での担い手不足が課題である。</p> <p>新田地区:お店や医療機関、工場等が多い。昔ながらの田園地帯の風景はほぼ無くなり、田んぼは開拓され新興住宅地が増えている。若い世代は入れ替わりが早く、高齢者は長く居住している。公営(市住・県住)住宅の高齢化が進んでおり、孤立している一人暮らし高齢者も多い。今後若い世代が関わった地域づくりが必要と思われる。地域の活動は比較的活発で、サロンや元気アップ体操は多くある。</p> <p>向島地区:防府市の南部に位置し錦山がある緑豊かな島。防長バスが1路線運航しているが高齢化率も高く、買い物や病院受診に不便を感じている。空き家の増加が問題となっている。また高齢者の一人暮らしも多く、中には孤立している人もいる。自治会と民生委員の連携が取れているため地域の課題を共有しやすい。積極的に新しい活動に取り組みられ、サロン活動・地域活動が活発。元気アップ体操の取り組みも盛んである。若い世代が少ないため、今後の地域づくりや担い手不足が懸念される。</p>		
重点的な取組について	<p>○高齢者の自立支援・重度化防止に向けた介護予防ケアマネジメントの質の向上</p> <p>高齢者が住み慣れた地域で自立した自分らしい生活を送れるよう、短期集中予防型サービスに取り組んでいきます。リハビリ専門職・事業所との協働により、元の生活を取り戻すための目標を明確にし、セルフマネジメントを高められるよう支援していきます。また、自立支援コーディネーターが中心となり地域ケア会議を行い、高齢者の自立について深く考え、その人らしい豊かな暮らしの提案が行えるよう努めます。</p>		

○介護予防の場づくりの推進と生活支援体制整備

「やまぐち元気アップ体操」について、既存のグループの支援継続と共に、新設の推進に取り組みます。地域の実情を把握し、地域の様々な機関に協力を頂きながら体験会や説明会を開催、介護予防について発信し、地域での取り組みについての重要性の周知を図ります。また、生活支援コーディネーターが中心となり、地域住民の方との連携を図りながら、住み慣れ地域で暮らし続けるための支援の開発に努めていきます。

○高齢者虐待の早期発見と対応・成年後見制度の利用促進

高齢者虐待の早期発見のため、相談窓口の周知を図ります。発見時には行政機関や関係機関と連携し、迅速な対応を行います。生活の困難さを抱える高齢者・家族について、専門医や司法職を交えた多職種での検討会議を開催・実施します。

「防府市成年後見センター」との連携、周知を図り、成年後見制度の利用促進に努めます。

○認知症になっても暮らしやすいまちづくりの推進

早期に適切な支援が受けられるよう認知症初期集中支援チームや地域ケア会議を活用し適時適切な支援に繋がります。家族支援者の介護離職を防ぎ、また負担の軽減を図れるよう、随時情報収集を行い、地域での啓発活動、認知症カフェ等の周知を図ります。

○在宅医療と介護の連携の促進

疾病を抱えても住み慣れた生活の場で自分らしい生活を続けられるよう、関係機関と連携し、多職種協働により在宅医療・介護を一体的に提供できるよう努めます。

センター名	防府北地域包括支援センター	法人名	社会福祉法人 ひとつの会
住所	高井544 宇佐川ビル1階	管理者	上野 綾乃
人員体制 (11)人	保健師等 3 人 社会福祉士 1 人 主任ケアマネジャー 2 人 ケアマネジャー 3 人 自立支援コーディネーター1 人 生活支援コーディネーター 1 人		
担当圏域 高齢者人口と 高齢化率	R4年3月末現在 8, 284人 ()65 歳以上の割合 【 】75 歳以上の割合	地区別	佐波 2, 689人 (29. 9%) 【15. 6%】 右田 2, 480人 (29. 0%) 【15. 4%】 玉祖 1, 677人 (32. 0%) 【14. 3%】 小野 1, 438人 (47. 8%) 【22. 9%】
地域の特性 について	担当地区については山間部から市内中心まで幅広く、高齢化率も徐々に上がってきています。特に高齢化率の高い山間部では買物通院に困難を感じている方が多数おられ、車の免許を返納された方々は買い物や通院の足が無くなり不便を感じて閉じこもりがちになる方もおられます。移動スーパーで買い物はできますが、通院や外出については目的地に着くまでの手段が課題となっています。住民活動は盛んで通いや訪問等の住民主体のサービスの利用がなされています。市内の中心部では買物や通院にあまり不便は感じておられませんが、昔ながらの地域活動が行われ、他者との交流が保っている地区とマンションやアパートにお住まいで他者と交流する機会が少なく、自宅で孤立している高齢者が多くなっています。特にマンションはオートロックのため、安否確認等に課題を抱えています。多世代同居の中でも高齢者だけでなく世帯員に課題を抱えている家庭もあり、高齢のみならず障害、子育てなど他機関との連携が必要です。また高齢者単身世帯や高齢者ご夫婦世帯、高齢者のみの世帯が増加しており近隣の方や民生委員さん等の見守り活動を受けながら、生活をしておられます。		
重点的な取組 について	<p>○高齢者の自立支援・重度化防止に向けたケアマネジメントの質の向上</p> <p>総合相談で対応した方に対してすぐに介護保険サービスのマッチングをするのではなく、今までの生活を継続することを目標にして、適切なアセスメント、他職種との連携により、一人一人の生活に寄り添い、生きがいを感じていただけるよう支援を進めていきます。</p> <p>リハビリ専門職・事業者と協働し、利用者が住み慣れた地域で元の生活を取り戻すための支援として短期集中予防型サービスの提案・実施を行います。</p> <p>短期集中予防型サービスの利用者にとって達成可能な目標を提示することにより、フレイル予防や利用者の自信の回復に努めます。また、サービス終了した方に対して、継続してモニタリングを行い必要に応じて地域のインフォーマルサービスの提案調整等を行います。</p> <p>利用者の望む暮らしの実現を図るため、自立支援コーディネーターを中心として自立支援型地域ケア会議を開催し、各関係機関からの助言をもとにその人らしい生活を提案します。</p> <p>○介護予防の場づくりの推進と生活支援体制整備</p> <p>「山口元気アップ体操」12 か所(佐波:4、右田:5、玉祖:2、小野:1)、「一般介護予防事業」2 か所(玉祖:1、小野:1)「通所サービス B」5 か所(佐波:1、右田:4)、「訪問サービス B」1 か所(小</p>		

野:1)など現在圏域で住民主体の集いの場や訪問サービスが開設されています。元気アップ体操が1年目を迎える集いの場に関しては、参加者の意見を伺いながら、今後も通所サービスBへの移行について支援を行っていきます。さらなる集いの場づくりについては、生活支援コーディネーターを中心に民生委員さん等地域を支える方々の協力を仰ぎながら地域の実情を把握し、どのような資源が必要か等検討しながら開発を進めていきます。

○高齢者虐待の早期発見と対応・成年後見制度の利用促進

高齢者虐待の相談窓口の周知を図り、早期発見に努めていきます。

困難な事例に関しては関係機関と連携し専門職派遣事業の活用等、問題の解決に向けて積極的に取り組みます。また、緊急性の高い事例に対しては速やかな対応を行っていきます。

成年後見制度や権利擁護事業等の必要な高齢者・家族に対して防府市成年後見センター等関係機関との協力を行いながらその方に適した制度の利用を提案します。

継続して職員の自己研鑽に努め、外部・内部研修を通して、知識・技術の向上に努めます。

○認知症になっても暮らしやすい町づくりの推進

認知症についての理解を深め、地域見守り体制を構築するため、認知症サポーター養成講座への職員派遣や認知症カフェ等の社会資源の情報提供をいたします。

相談窓口としての役割の強化、民生委員・福祉員・友愛訪問員等と情報共有連携を行いながら、認知症になっても暮らしやすい町づくりに努めます。

地域の会議に出席し、認知症の知識や認知症の方の接し方等情報提供を積極的に行っていきます。

認知症疾患センターとの連携により、早期の相談対応や利用できる制度など対象者・ご家族に向けての支援を丁寧に行っていきます。必要な医療・介護支援に結び付いていない人については、認知症初期集中チームと協力しながら見守りや支援へ繋いでいきます。

○在宅医療と介護の連携の推進

医療と介護は切り離せない現状の中で、医療関係者や相談窓口と連携をとることにより、多種多様な利用者の皆様のご相談に対応できる様、知識・技術の向上に努めます

リーフレットを活用し、利用者・家族にわかりやすい情報提供を目指します。

○高齢者の相談窓口としての地域包括支援センターの更なる周知

地域包括支援センターの周知については、住民主体の集いの場での講座や各関係機関の会合に参加しご説明と周知を図ります。